

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
<b>題名 (原題/訳)</b> Tobacco and alcohol-related mortality in men: estimates from the Australian cohort of petroleum industry workers. 男性のタバコと飲酒に関連した死亡率、ペトロレウム工場勤労者集団によるオーストラリアのコホート研究からの考察	
<b>執筆者</b> Gun RT, Pratt N, Ryan P, Gordon I, Roder D.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Aust N Z J Public Health. 2006 Aug;30(4):318-24.	
<b>キーワード</b> タバコ、アルコール、相対化死亡比、オーストラリア	
<b>要 旨</b> <b>目的・方法：</b> オーストラリアの工場労働者男性 16,547 人を対象に 1981 年から 1999 年の間に喫煙と飲酒状況についての調査を実施し、2000 年、2001 年の死亡統計をもとに喫煙、が主要な死亡に与える影響、喫煙の影響を調整した上で飲酒が死亡に与える影響を解析した。エンドポイントについては死亡を 2001 年末、がん罹患を 2000 年末まで調査した。	
<b>結果：</b> 一日 30 本以上喫煙者の死亡率は非喫煙者に比べて総死亡で 3 倍以上、虚血性心疾患死亡は 4 倍、癌罹患で 1.6 倍と高く、肺癌罹患については 43 倍であった。生涯非喫煙者では肺がん患者は 4 名しか観察されなかった。また、喫煙状況を調整後の飲酒量ごとの死亡率については総死亡、循環器疾患死亡とも非飲酒、多量飲酒と比べに比べ少量飲酒では保護効果が認められた。この保護効果は主に虚血性心疾患死亡において観察された。	
<b>結論：</b> 生涯を通じてタバコを吸わないこと及び適量飲酒をすることは平均余命に対して有意な改善をもたらす。	